

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|---------------------|-----|--------------|
| ○事業所名 | 児童発達支援事業所キッズサポートてみる | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 1月 6日 | | 2025年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 36名 | (回答者数) 35名 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 1月 6日 | | 2025年 1月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 8名 | (回答者数) 8名 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 2月 20日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|---|---|
| 1 | 日々の活動に力を入れており、充実した療育プログラムを提供している。 | 通所する子どもたちに合わせた内容や発達の水準を評価するためのプログラムを選定し、実施している。 | 小集団療育の特性を活かして、ソーシャルスキルトレーニングや就学に向けての概念理解を高めるための取り組みの充実を図っていく。 |
| 2 | 活動報告を連絡帳アプリにて写真・メッセージで細かくお伝えし、保護者様への療育内容の情報共有が行えている。 | 活動毎に目的と内容報告を専門的な視点でお伝えすることを心がけ、母子分離の療育を行う上で保護者さまへ安心して送り出していただけよう写真を活用してお伝えしている。 | より読みやすいメッセージへ変更を加えていくことで、保護者さまにもよりご理解していただきやすい内容へ変更していく。 |
| 3 | 活動毎に実施場所を変えて、適切な環境で支援を行っている。 | 静と動の意識を環境面から整えることで子どもたちも見通しを立てやすいように配慮している | 専門職がより正確な評価を行いやすく、子どもたちも安心して支援を受けることができる環境配慮を行う。 |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|--|--|
| 1 | 1日の活動プログラム数を充実させている反面、1つの活動に使える時間が短い。 | 多くの活動を取り入れた多様なプログラムとしているため各活動時間が短くなっている。 | 週ごとに活動プログラムを絞るなどの見直しを行い、1回の活動内容の統合を図る。 活動ごとの目的を明確化し、子どもたちがじっくり取り組めるようにプログラムの構成を見直す。 |
| 2 | 日々の活動報告の連絡帳メッセージが長文となっており、読みにくく目を通していただけていないケースもある。 | 文章形式でのメッセージとなっているため、スマホで確認した際に縦に長くすべてに目を通すのに時間がかかる。 | 文章形式でのメッセージを読みやすく理解しやすい形式に変更する。 |
| 3 | 研修やスキルアップのための十分な時間確保が難しい。 | 日々の業務に時間をとられてしまっていることに加え、属人的な作業形態であり職員全員の時間を確保するのが難しい。 | 活動の振り返りや記録の効率化を進め、より質の高い支援を提供できる体制を整える。 |